

## 東北の未来へ RUNRUN！プロジェクト

2月13日 [鶴住居小学校]

日清食品グループによる「子どもたちの夢、応援します。東北の未来へ RUNRUN!プロジェクト」が、鶴住居小学校で行われました。講師として訪れた同グループ陸上競技部の安西秀幸選手（28・福島県出身）は、同小5年生児童にホームルームやランニング教室を通じ、あきらめない心や創造力の大切さ、走ることの楽しさを説いていました。



児童にランニングの楽しさを教える安西選手



高台に駆け上がりゴールする参加者

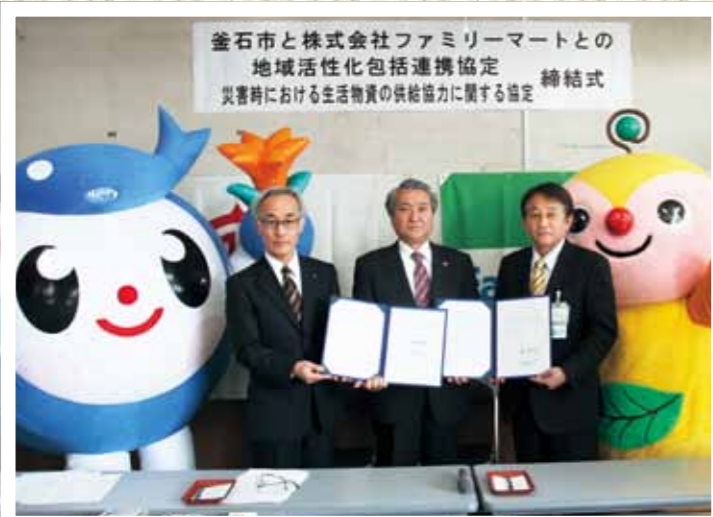
## 新春 韋駄天競走

2月2日 [仙寿院]

震災の教訓を伝えるため、津波発生時の迅速な高台避難と節分行事を融合させたイベントが初めて開かれました。中学生から80代の佐々木多喜子さんを最高齢に、参加した男女約40人は小雨の中、津波で浸水した市街地から高台の境内まで、距離286m・標高差26mの坂道を懸命に駆け上がり、男女各1位が「福男」「福女」として表彰されました。

## 他団体と市の相次ぐ協定締結

2月17日・3月7日 [市役所]



かまリンとエコロンが立ち会い協定を締結

### ファミリーマート/2月17日

大手コンビニエンスストアのファミリーマートと市が、地域活性化包括連携協定、災害時における生活物資の供給協力に関する協定を締結しました。締結記念、復興支援として、市内企業の地元産品を使って開発したオリジナル商品5品（釜石ラーメンなど）が発表され、翌18日から1カ月間、東北6県と新潟県の同社約770店舗で販売されました。

## スポーツチャンバラ大会

2月16日 [中妻体育館]

今年で8回目となった市長杯大会には、市内の幼児から大人まで48人が参加し、年代別に基本動作、小太刀、長剣、二刀の種目ごとにトーナメント戦が行われました。参加者たちはエアソフト剣を手に、互いに相手の一瞬のすきを狙う攻防を展開。屋外の大雪を吹き飛ばすような見ごたえある熱戦を繰り広げました。



白熱した攻防を展開

### 横浜市中区/3月7日

横浜市中区と市は、幅広い交流・協力関係をさらに深めるため、友好交流協定を締結しました。震災以降、同区職員が「横浜支援隊」を結成し、ボランティア休暇を利用して当市を訪れ、仮設住宅での支援活動やイベント開催などが継続して行われてきました。今後、防災教育、相互のイベント参加、文化など幅広い分野で交流を進めていきます。



協定書を取り交わす三上章彦区長(左)と野田市長



ロボットカー作りを指導する拓大生

## 拓殖大学学生レスキューボランティア「理科教室」

3月3日 [大平中学校]

震災後から継続して当市で復興支援活動を行っている拓殖大学の理科教室が大平中学校で行われました。同中2年生49人は、吉森茂工学部教授や10人の学生らの指導によるLEDとフォトトランジスタを使ったロボットカー作りに目を輝かせ、ものづくりの楽しさを学んでいました。なお、一行は翌4日、釜石東中学校でも同教室を開催しました。